



Sun GlassFish Enterprise Server v3 Prelude リリースノート



Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No: 820-6992-10
2008年10月

Sun Microsystems, Inc. (以下米国 Sun Microsystems 社とします) は、本書に記述されている製品に含まれる技術に関連する知的財産権を所有します。特に、この知的財産権はひとつかそれ以上の米国における特許、あるいは米国およびその他の国において申請中の特許を含んでいることがあります。それらに限定されるものではありません。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

U.S. Government Rights Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

この配布には、第三者によって開発された素材を含んでいることがあります。

本製品に含まれる HG-MinchoL、HG-MinchoL-Sun、HG-PMinchoL-Sun、HG-GothicB、HG-GothicB-Sun、および HG-PGothicB-Sun は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。HeiseiMin-W3H は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴマーク、Solaris のロゴマーク、Java Coffee Cup のロゴマーク、docs.sun.com、Java および Solaris は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標、登録商標もしくは、サービスマークです。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

Wnn は、京都大学、株式会社アステック、オムロン株式会社で共同開発されたソフトウェアです。

Wnn8 は、オムロン株式会社、オムロンソフトウェア株式会社で共同開発されたソフトウェアです。Copyright(C) OMRON Co., Ltd. 1995-2006. All Rights Reserved. Copyright(C) OMRON SOFTWARE Co., Ltd. 1995-2006 All Rights Reserved.

「ATOK for Solaris」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK for Solaris」にかかる著作権、その他の権利は株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

「ATOK」および「推測変換」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「ATOK for Solaris」に添付するフェイスマーク辞書は、株式会社ビレッジセンターの許諾のもと、同社が発行する『インターネット・パソコン通信フェイスマークガイド』に添付のものを使用しています。

「ATOK for Solaris」に含まれる郵便番号辞書(7桁/5桁)は日本郵政公社が公開したデータを元に制作された物です(一部データの加工を行なっています)。

Unicode は、Unicode, Inc. の商標です。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK のグラフィカル・ユーザインタフェースを実装するか、またはその他の方法で米国 Sun Microsystems 社との書面によるライセンス契約を遵守する、米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

本書で言及されている製品や含まれている情報は、米国輸出規制法で規制されるものであり、その他の国の輸出入に関する法律の対象となることがあります。核、ミサイル、化学あるいは生物兵器、原子力の海洋輸送手段への使用は、直接および間接を問わず厳しく禁止されています。米国が禁輸の対象としている国や、限定はされませんが、取引禁止顧客や特別指定国民のリストを含む米国輸出排除リストで指定されているものへの輸出および再輸出は厳しく禁止されています。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法(外為法)に定められる戦略物資等(貨物または役務)に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: SunGlassFish Enterprise Server v3 Prelude ReleaseNotes

Part No: 820-4494-10

目次

1 Sun GlassFish Enterprise Server v3 Prelude リリースノート	5
改訂履歴	5
Sun GlassFish Enterprise Server v3 Prelude リリースの新機能	6
モジュラー設計	6
Enterprise Server 拡張のサポート	6
Enterprise Server 組み込みのサポート	7
更新ツールの統合	7
スクリプト作成言語のサポート	7
Web 層の拡張	8
ハードウェアとソフトウェアの要件	8
サポートされるプラットフォーム	9
システムの仮想化のサポート	10
必要なディスク容量	10
必要な未使用ポート	10
重要パッチ情報	11
必要な JDK バージョン	12
サポートされる JDBC ドライバおよびデータベース	12
サポートされるブラウザ	12
既知の問題	13
Red Hat Linux でのインストール時に、製品登録できない (問題 6058)	13
メニュー項目からの開始と停止により、管理コンソールが最小化された状態で 起動される (問題 5100)	14
Windows Vista でのインストールで、「スタート」メニュー項目が表示されない (問題 5087)	14
delete-domain コマンドでドメインが実行中でないことが確認されない (問題 6196)	15
Update Tool Notifier が実行されていると、Windows インストールディレクトリを 削除できない (問題 5789)	15
uninstall.sh コマンドで、すべてのファイルを削除できない (問題 6032)	15

uninstall.exe コマンドでデスクトップショートカットが削除されない (問題 5856)	16
ドメイン /applications ディレクトリのファイルアクセス権によって NullProcessException が発生することがある (問題 6545)	16
Windows インストールで、ログファイルが読めない (問題 4881)	16
アップデートセンターを起動するために updatetool コマンドを実行するとセグメンテーション違反が発生する (問題 5514)	17
Windows AMD64 ではクライアント仮想マシンがサポートされない (問題 6395)	17
ユーザー作成後、匿名ユーザーに管理者権限が付与される (問題 6481)	18
新しい仮想サーバーの統計にアクセスするにはサーバーを再起動する必要がある (問題 6238、6422)	18
管理コンソール およびコマンド行で、設定のログ作成をサポートしていない (問題 6630)	18
create jdbc-connection-pool のヘルプ情報にオプションが記載されていない (問題 5766)	19
制限事項	19
アップグレード	19
domain.xml ファイル内の application-root 属性	20
asadmin コマンドでサポートされないオプション	20
マルチモード操作	20
セキュリティー	20
Java EE 5 プラットフォームの API	20
Java EE 5 SDK	21
Enterprise Server のマニュアルセット	22
問題の報告とフィードバックの方法	23
その他のリソース	23
第三者の Web サイト参照	24
アクセシビリティ機能	24

Sun GlassFish Enterprise Server v3 Prelude リリースノート

この『Sun GlassFish™ Enterprise Server v3 Prelude リリースノート』では、Enterprise Server の新機能、および既知の問題とその回避策 (存在する場合) など、Enterprise Server v3 Prelude リリースの重要な情報について説明します。

このドキュメントは、ソフトウェアをインストールしてセットアップする前に確認し、Sun GlassFish Enterprise Server v3 Prelude を使用する前にお読みください。最新の情報を入手するには、このドキュメントを定期的に確認してください。

- 5 ページの「改訂履歴」
- 6 ページの「Sun GlassFish Enterprise Server v3 Prelude リリースの新機能」
- 8 ページの「ハードウェアとソフトウェアの要件」
- 13 ページの「既知の問題」
- 19 ページの「制限事項」
- 20 ページの「Java EE 5 プラットフォームの API」
- 21 ページの「Java EE 5 SDK」
- 22 ページの「Enterprise Server のマニュアルセット」
- 23 ページの「問題の報告とフィードバックの方法」
- 23 ページの「その他のリソース」
- 24 ページの「第三者の Web サイト参照」
- 24 ページの「アクセシビリティ機能」

改訂履歴

この節では『Sun GlassFish Enterprise Server v3 Prelude リリースノート』の変更履歴を示します。

表 1-1 改訂履歴

改訂日	変更点の説明
2008 年 10 月	初期リリース。

Sun GlassFish Enterprise Server v3 Prelude リリースの新機能

Sun GlassFish Enterprise Server v3 Prelude は、Java Platform, Enterprise Edition (Java™ EE プラットフォーム) アプリケーションの開発と配備のためのサーバー、および Java テクノロジを基盤とする Web テクノロジを提供します。

Enterprise Server v3 Prelude で開発された Web アプリケーションは、GlassFish v2 Application Server など、以前のバージョンの Enterprise Server にも配備できます。

ここでは次の Enterprise Server の新機能について説明します。

- 6 ページの「モジュラー設計」
- 6 ページの「Enterprise Server 拡張のサポート」
- 7 ページの「Enterprise Server 組み込みのサポート」
- 7 ページの「更新ツールの統合」
- 7 ページの「スクリプト作成言語のサポート」
- 8 ページの「Web 層の拡張」

モジュラー設計

Sun GlassFish Enterprise Server v3 Prelude では GlassFish コードがモジュールに分割されたため柔軟性がもたらされ、ランタイムパフォーマンスも向上しました。このモジュラーアーキテクチャーは OSGi Alliance 規格に基づいて実装され、Enterprise Server v3 Prelude モジュールおよびその他のモジュールの再利用を可能にします。

この設計により、ユーザーは配備するアプリケーションに必要なモジュールのみをダウンロードしてインストールすることができます。ランタイムはそれを使用するアプリケーションのみに使用され、システムを完全に再インストールしなくてもアップグレードを実装することができます。この変更により起動時間、メモリー消費、必要なディスク容量が最小化されました。

モジュラー設計により、次のことが可能になります。

- OSGi バンドルのインポート
- ライブラリ Java アーカイブ (JAR) ファイルのインポート
- その他の内蔵型アプリケーションへの Enterprise Server の組み込み
- Enterprise Server Web コンテナとその他の Web コンテナの置き換え

Enterprise Server 拡張のサポート

新しい Sun GlassFish Enterprise Server v3 Prelude コンテナのシステムプロバイダインタフェース (SPI) では、コンテナ開発者が実装する必要があるインタフェースを定義して、Enterprise Server から適切なタイミングで呼び出せるようになります。この変更により、Enterprise Server ユーザーは管理コマンドとグラフィカルなアドオンコンポーネントを追加することで、カスタムアプリケーションサーバーを構築できます。

また、Enterprise Server は Ruby on Rails などの新しいモジュールタイプにも合理的に対応しています。

Enterprise Server 組み込みのサポート

Sun GlassFish Enterprise Server v3 Prelude は OSGi Alliance 規格を基盤としているため、OSGi をベースとするあらゆるランタイムに OSGi モジュールを容易に組み込むことができます。Enterprise Server 自体は、互換性のある他のモジュールやアプリケーションに組み込むことができます。

動的機能セットの数が少なく、モジュラー式ではないバージョンの Enterprise Server v3 Prelude は、Java またはネイティブランタイムに組み込むことができます。

更新ツールの統合

Sun GlassFish Enterprise Server v3 Prelude 管理コンソールに更新ツールが組み込まれました。このツールは自動更新を提供し、Enterprise Server v3 Prelude 機能の拡張に使用するアドオンコンポーネントおよび関連アプリケーションの管理を容易にします。

管理コンソールのナビゲーションツリーから「Update Center」オプションを使用できます。更新ページのタブに表示されるものは、次のとおりです。

- インストールされているコンポーネント
- インストールされたコンポーネントに使用できる更新
- 使用可能、インストール可能なアドオンコンポーネント

この変更により、更新ツールのために用意された `updatetool` コマンドを使用してツールのスタンドアロンバージョンを起動する必要性は、非常に低くなりました。

管理コンソールでは Update Center 2.0 API を使用して使用可能なモジュール、バージョン、および日付のリストを表示します。更新ツールは、[Update Center](http://wiki.updatecenter.java.net/) (<http://wiki.updatecenter.java.net/>) プロジェクトによって開発されました。

スクリプト作成言語のサポート

Sun GlassFish Enterprise Server v3 Prelude では、アプリケーション開発と配備の高速化を促進するために、さまざまなスクリプト作成言語をサポートしています。スクリプト作成言語を使用することで、Enterprise Server を Java テクノロジーを中心とする開発以外にも適用することができます。サポートされるスクリプト作成言語には、次のようなものが含まれます。

- JRuby および Rails: Web アプリケーション開発用のスクリプト作成言語とフレームワークです。
- Grails: Groovy プログラミング言語を活用して Java による Web 開発を補完する、Web アプリケーションフレームワークです。
- Phobos: 軽量でスクリプト作成に向けた Web アプリケーション環境。JavaScript プログラミング言語をサポートしているので、開発者は Web アプリケーションのクライアント層とサーバー層に同じ言語を使用できます。
- jMaki: Ajax Web アプリケーション作成のためのフレームワークです。

これらのスクリプト作成言語のサポートは、更新ツールを通じて利用できるコンポーネントによって提供されます。

Web 層の拡張

Sun GlassFish Enterprise Server v3 Prelude は Java EE 仕様の Web 層をサポートし、Web アプリケーションの配備を可能にします。Enterprise Server は、次の Java EE 技術標準を実装しています。

- Java Persistence API 1.0
- Java Servlet 2.5
- JavaServer™ Faces 1.2
- Java Server Pages™ 2.1 (JSP™ 2.1)
- Java Server Pages Standard Tag Library (JSTL) 1.2
- Streaming API for XML (StAX)

これらの標準に基づいて構築された Enterprise Server v3 Prelude は、次のような数々の拡張機能を提供します。

- Comet および Representation State Transfer (REST): サーバーでドメイン固有のデータを転送するために Hypertext Transmission Protocol (HTTP) を使用する場合の遅延を減少させ、Simple Object Access Protocol (SOAP) のような付帯的なメッセージングレイヤーを必要としません。
- Ajax (Asynchronous JavaScript and XML): Web ページのその他の部分に影響を与えずに、ページの一部の新規データを取得して表示します。
- Metro: Java Architecture for XML Binding (JAXB) および Java APIs for XML Web Services 2.1 (JAX-WS 2.1) を実装する Web サービススタックです。
- Roller: 任意のリレーショナルデータベースを使用する任意の Java EE サーバー上で動作するブログサーバーです。
- Grizzly: New I/O (NIO) API を使用した、拡張性が高く安定したサーバーを構築するためのフレームワークで、数千ユーザーまでの拡張が可能です。HTTP、Bayeux Protocol、Java Servlet API、Comet をサポートするコンポーネントの組み込み機能が提供されます。

ハードウェアとソフトウェアの要件

この節では、Sun GlassFish Enterprise Server v3 Prelude 製品をインストールする前に満たしている必要のある要件を示します。

- 9 ページの「サポートされるプラットフォーム」
- 10 ページの「システムの仮想化のサポート」
- 10 ページの「必要なディスク容量」
- 10 ページの「必要な未使用ポート」
- 11 ページの「重要パッチ情報」
- 12 ページの「必要な JDK バージョン」

- 12 ページの「サポートされる JDBC ドライバおよびデータベース」
- 12 ページの「サポートされるブラウザ」

サポートされるプラットフォーム

Sun GlassFish Enterprise Server v3 Prelude では、インストールのために最小 200M バイトのディスク空き容量と、実行のために 100M バイトのメモリーが必要です。

次の表に、サポートされるオペレーティングシステム、最小メモリー、推奨メモリー、最小ディスク容量、推奨ディスク容量、Java 仮想マシンを示します。

表 1-2 サポートされるオペレーティングシステム

オペレーティングシステム	最小メモリー	推奨メモリー	最小ディスク容量	推奨ディスク容量	Java 仮想マシン
Solaris™ オペレーティングシステム					
Solaris 10 (SPARC™ プラットフォーム)	512M バイト	512M バイト	250M バイトの空き領域	500M バイトの空き領域	J2SE™ 5.0 Java SE 6
Solaris 10 (x86 プラットフォーム)	512M バイト	512M バイト	250M バイトの空き領域	500M バイトの空き領域	J2SE 5.0 Java SE 6
OpenSolaris™	512M バイト	512M バイト	250M バイトの空き領域	500M バイトの空き領域	J2SE 5.0 Java SE 6
Linux					
RedHat Enterprise Linux 5.0	512M バイト	1G バイト	250M バイトの空き領域	500M バイトの空き領域	J2SE 5.0 Java SE 6
RedHat Enterprise Linux 4.0	512M バイト	1G バイト	250M バイトの空き領域	500M バイトの空き領域	J2SE 5.0 Java SE 6
SuSE Linux Enterprise Server 10	512M バイト	1G バイト	250M バイトの空き領域	500M バイトの空き領域	J2SE 5.0 Java SE 6
Ubuntu Linux 8.0.4	512M バイト	1G バイト	250M バイトの空き領域	500M バイトの空き領域	J2SE 5.0 Java SE 6
Windows					

表 1-2 サポートされるオペレーティングシステム (続き)

オペレーティングシステム	最小メモリ	推奨メモリ	最小ディスク容量	推奨ディスク容量	Java 仮想マシン
Windows XP Professional SP2	1G バイト	2G バイト	500M バイトの空き領域	1G バイトの空き領域	J2SE 5.0 Java SE 6
Windows Vista (Business エディション)	1G バイト	2G バイト	500M バイトの空き領域	1G バイトの空き領域	J2SE 5.0 Java SE 6
Windows 2008	1G バイト	2G バイト	500M バイトの空き領域	1G バイトの空き領域	J2SE 5.0 Java SE 6
MacOS					
MacOS X 10.4 および 10.5	1G バイト	2G バイト	500M バイトの空き領域	1G バイトの空き領域	J2SE 5.0 Java SE 6

UNIX™ プラットフォームでは、オペレーティングシステムのバージョンを `uname` コマンドで確認できます。ディスク容量は `df` コマンドで確認できます。

注 - Microsoft Windows プラットフォームで Enterprise Server を実行している場合は、FAT や FAT32 ではなく NTFS ファイルシステムを使用します。

システムの仮想化のサポート

システムの仮想化は、複数のオペレーティングシステム (OS) インスタンスを共用ハードウェア上で個別に実行できるようにするテクノロジーです。機能的にいうと、仮想化された環境でホストされる OS に配備されたソフトウェアは、通常はベースとなるプラットフォームが仮想化されていることを認識しません。Sun では、精選されたシステムの仮想化と OS の組み合わせについて、その Sun Java System 製品のテストを行っています。これは、Sun Java System 製品が、適切な規模と構成の仮想化された環境で、仮想化されていないシステム上の場合と同様に引き続き機能することを実証するためのテストです。仮想化された環境における Sun Java System 製品のサポートについては、[System Virtualization Support in Sun Java System Products](#) を参照してください。

必要なディスク容量

Enterprise Server v3 Prelude をインストールするには、一時ディレクトリに最小 35M バイトの空き容量が必要です。

必要な未使用ポート

利用可能な未使用ポートが six 個必要です。

インストールプログラムは、使用されているポートを自動的に検出し、その時点で未使用のポートをデフォルトの設定として示します。

次の表に、最初のデフォルトポート割り当てを示します。これらのデフォルトポート番号が使用されている場合、インストールプログラムは動的なポート範囲からランダムに選択されたポート番号を割り当てます。選択されるポート番号は、次に使用可能なポート番号ではない場合があります。

表 1-3 Enterprise Server v3 Prelude のデフォルトポート割り当て

ポート番号	用途
4848	管理コンソール
8080	HTTP
8081	HTTPS
8686	Pure JMX Client
3700	IIOIP
3820	IIOIP/SSL
3920	双方向認証を使用する IIOIP/SSL

重要パッチ情報

Solaris のパッチ要件

Solaris 10 オペレーティングシステムを使用している場合は、次の表のとおりプラットフォームに適したパッチを適用する必要があります。

プラットフォーム	パッチ番号
SPARC プラットフォーム	119963-08
x86 プラットフォーム	119964-08

これらのパッチは SunSolveSMWeb サイト

(<http://sunsolve.sun.com/pub-cgi/show.pl?target=patchpage>) から入手できます。「パッチ検索」セクションのテキストボックスにパッチ番号を入力して、「Find Patch」ボタンをクリックします。

Solaris 10 OS (x86、SPARC プラットフォーム) を使用している場合は、Sun が推奨するパッチクラスタが適用されていることを確認してください。このパッチクラスタは SunSolveWeb サイト (<http://sunsolve.sun.com/pub-cgi/show.pl?target=patchpage>) から入手できます。「ダウンロード」セクションで「推奨 & セキュリティパッチ」のリンクをクリックします。ライセンス契約書が表示されたら、「Agree」ボタンをクリックします。

必要な JDK バージョン

Sun GlassFish Enterprise Server v3 Prelude に必要な JDK の動作が保証されている最小バージョンは 1.5.0_15 です。

サポートされる JDBC ドライバおよびデータベース

次の表に、Java EE の互換性要件を満たすデータベースとドライバを示します。サポートされる Sun GlassFish Enterprise Server v3 Prelude のすべての構成には、Java DB とドライバなど、この表のデータベースとドライバの組み合わせが少なくとも 1 組合まれている必要があります。また、Enterprise Server は Java DataBase Connectivity (JDBC™) テクノロジーを通じ、対応する JDBC API をサポートするドライバ (JDBC ドライバ) によってほかの任意のデータベース管理システム (DBMS) との接続をサポートするよう設計されています。

表 1-4 Java EE 互換の JDBC ドライバ

JDBC ドライバベンダー	JDBC ドライバのタイプ	サポートされるデータベースサーバー
MySQL Connector/J Driver 5.0	Type 4	MySQL 5.0
JavaDB 10.2.0	Type 4	Derby 10.2
Oracle 10G	Type 4	Oracle 10g

通常、Sun GlassFish Enterprise Server v3 Prelude は Java EE 仕様に適合するすべての JDBC ドライバをサポートします。

サポートされるブラウザ

次の表に、サポートされるブラウザとバージョンを示します。

表 1-5 サポートされている Web ブラウザ

ブラウザ	バージョン
Mozilla	1.7.12
Internet Explorer	6.0 および 7.0
Firefox	2.0
SeaMonkey	1.0

既知の問題

この節では Enterprise Server の既知の問題を取り上げます。

- 13 ページの「Red Hat Linux でのインストール時に、製品登録できない(問題 6058)」
- 14 ページの「メニュー項目からの開始と停止により、管理コンソールが最小化された状態で起動される(問題 5100)」
- 14 ページの「Windows Vista でのインストールで、「スタート」メニュー項目が表示されない(問題 5087)」
- 15 ページの「delete-domain コマンドでドメインが実行中でないことが確認されない(問題 6196)」
- 15 ページの「Update Tool Notifier が実行されていると、Windows インストールディレクトリを削除できない(問題 5789)」
- 15 ページの「uninstall.sh コマンドで、すべてのファイルを削除できない(問題 6032)」
- 16 ページの「uninstall.exe コマンドでデスクトップショートカットが削除されない(問題 5856)」
- 16 ページの「ドメイン/applications ディレクトリのファイルアクセス権によって NullProcessException が発生することがある(問題 6545)」
- 16 ページの「Windows インストールで、ログファイルが読めない(問題 4881)」
- 17 ページの「アップデートセンターを起動するために updatetool コマンドを実行するとセグメンテーション違反が発生する(問題 5514)」
- 17 ページの「Windows AMD64 ではクライアント仮想マシンがサポートされない(問題 6395)」
- 18 ページの「ユーザー作成後、匿名ユーザーに管理者権限が付与される(問題 6481)」
- 18 ページの「新しい仮想サーバーの統計にアクセスするにはサーバーを再起動する必要がある(問題 6238、6422)」
- 18 ページの「管理コンソールおよびコマンド行で、設定のログ作成をサポートしていない(問題 6630)」
- 19 ページの「create jdbc-connection-pool のヘルプ情報にオプションが記載されていない(問題 5766)」

Red Hat Linux でのインストール時に、製品登録できない(問題 6058)

説明

Red Hat Linux オペレーティングシステムで Open JDK が使用されている場合、インストールを通じた製品登録がサポートされません。

詳細については [問題報告](#)

(http://glassfish.dev.java.net/issues/show_bug.cgi?id=6058) を参照してください。

回避策

インストールを登録するには、次のとおり実行します。

1. この環境でインストールする際に、「登録をスキップする」オプションを選択します。
2. 管理コンソールまたはアップデートセンターを使用して、インストールを登録します。

メニュー項目からの開始と停止により、管理コンソールが最小化された状態で起動される (問題 5100)

説明

メニュー項目の「■Start and Stop Application Server■」のプロパティの「■Run■」フィールドが「標準」に設定されていると管理コンソールが最大化の状態では起動しますが、これらのメニュー項目を使用するとプロパティが最小に設定されているかのような状態で管理コンソールが起動されます。

詳細については [問題報告](#)

(http://glassfish.dev.java.net/issues/show_bug.cgi?id=6058) を参照してください。

回避策

管理コンソールを手動で最大化する必要があります。

Windows Vista でのインストールで、「スタート」メニュー項目が表示されない (問題 5087)

説明

Windows Vista でのインストールが終了したあと、「スタート」メニューのプログラムグループに次の問題が発生します。

- 「スタート」メニューグループが表示されない。
- 「スタート」メニューのグループが空になる。ドメインの開始、停止、アップデートセンターの開始が表示されません。

詳細については [問題報告](#)

(http://glassfish.dev.java.net/issues/show_bug.cgi?id=6058) を参照してください。

回避策

「スタート」メニューのプログラムグループを表示するためには、ログアウトしてから再度ログインする必要があります。

delete-domain コマンドでドメインが実行中でないことが確認されない(問題 6196)

説明

delete-domain コマンドで、削除するドメインが実行中であるかどうかを確認されません。delete-domain コマンドを実行するときに削除対象のドメインが実行されている場合には、コマンドが失敗して、ユーザーにドメインを停止するよう通知する必要があります。

詳細については [問題報告](#)

(http://glassfish.dev.java.net/issues/show_bug.cgi?id=6058) を参照してください。

回避策

delete-domain コマンドを実行する前に、stop-domain コマンドを実行します。

Update Tool Notifier が実行されていると、**Windows** インストールディレクトリを削除できない(問題 5789)

説明

Update Tool Notifier が実行されているときに c:\Program ディレクトリから glassfishv3-prelude ファイルを削除しようとすると、「■Error deleting File or Folder: Cannot delete msvc71: Access is denied■」というメッセージが表示されます。

詳細については [問題報告](#)

(http://glassfish.dev.java.net/issues/show_bug.cgi?id=6058) を参照してください。

回避策

インストールディレクトリを削除する前に Update Center Notifier のウィンドウを閉じて、このユーティリティを停止します。

uninstall.sh コマンドで、すべてのファイルを削除できない(問題 6032)

説明

uninstall.sh コマンドを実行したあと、「■WARNING: Cannot delete file filename filename■」というメッセージが表示されます。

詳細については [問題報告](#)

(http://glassfish.dev.java.net/issues/show_bug.cgi?id=6058) を参照してください。

回避策

ディレクトリのコンテンツを確認して、ファイルが削除されたことを確認します。残っているファイルがある場合は、手動で削除します。UNIX インストールを削除している場合は、隠しディレクトリを確認して削除してください。

uninstall.exe コマンドでデスクトップショートカットが削除されない(問題 5856)

説明

Enterprise Server v3 Prelude のデスクトップショートカットがプログラムメニューに残り、*as-install/uninstall.exe* (*as-install* は Enterprise Server のインストールディレクトリ) の後、ログファイルにエラーメッセージが書き込まれます。

詳細については [問題報告](#)

(http://glassfish.dev.java.net/issues/show_bug.cgi?id=6058) を参照してください。

回避策

Enterprise Server v3 Prelude を再インストールしてエントリーを上書きするか、ショートカットをリストから手動で削除します。

ドメイン /applications ディレクトリのファイルアクセス権によって NullProcessException が発生することがある(問題 6545)

説明

ドメインの /applications ディレクトリでアクセス権が制限されているか、または制限されたディレクトリからのディレクトリ配備を使用している場合、サーバーは拡張ディレクトリ内のファイルを読み取ることができません。配備中に NullProcessException エラーが発生します。

詳細については [問題報告](#)

(http://glassfish.dev.java.net/issues/show_bug.cgi?id=6058) を参照してください。

回避策

こうしたディレクトリのファイルアクセス権を変更して、ディレクトリのコンテンツを読み出すことができるアクセス権をサーバーに許可します。

Windows インストールで、ログファイルが読めない(問題 4881)

説明

time-stamp-install.log ファイルに書き込まれたすべての行が1行に結合されているため、ファイルを読み取ることができません。

詳細については [問題報告](#)

(http://glassfish.dev.java.net/issues/show_bug.cgi?id=6058) を参照してください。

回避策

別のエディタを使用して、%TEMP% ディレクトリの下に作成されているインストールログファイルを手動で開きます。

アップデートセンターを起動するために `updatetool` コマンドを実行するとセグメンテーション違反が発生する (問題 5514)

説明

Solaris 10 x86 システム上にアップデートセンターがインストールされたあと、`updatetool` を使用してアップデートセンターを起動すると `segv` エラーによってコマンドが失敗します。

詳細については [問題報告](#)

(http://glassfish.dev.java.net/issues/show_bug.cgi?id=6058) を参照してください。

回避策

Enterprise Server 管理コンソールを使用してアップデートセンターにアクセスします。

Solaris 10 x86 オペレーティングシステムインストールの場合は、パッチ 119964-08 および 125212-01 をインストールします。

Windows AMD64 ではクライアント仮想マシンがサポートされない (問題 6395)

説明

Enterprise Server では、起動と配備で最高のパフォーマンスを達成するためにデフォルトでクライアント仮想マシンを使用しています。サーバー仮想マシンのみを含む JDK を使用している場合は、`domain.xml` 設定ファイルを編集してクライアント行を削除する必要があります。

詳細については [問題報告](#)

(http://glassfish.dev.java.net/issues/show_bug.cgi?id=6058) を参照してください。

回避策

使用しているプラットフォーム/オペレーティングシステムで、クライアント JVM がサポートされていることを確認します。サポートされていない場合は、`domain.xml` ファイルを編集して `<jvm-options>-client</jvm-options>` の行を削除します。この場合、JVM エルゴノミクスによって該当のプラットフォームに対して適切な種類の仮想マシンが選択されます。

プラットフォームサポートの詳細については、「[Ergonomics in the 5.0 Java Virtual Machine](http://java.sun.com/docs/hotspot/gc5.0/ergo5.html) (<http://java.sun.com/docs/hotspot/gc5.0/ergo5.html>)」を参照してください。

ユーザー作成後、匿名ユーザーに管理者権限が付与される (問題 6481)

説明

匿名ユーザーはデフォルトドメインに作成されるデフォルトユーザーです。デフォルトドメインに別の管理ユーザーが追加されても、匿名ユーザーの定義はそのまま使用できます。そのため、すべてのユーザーが匿名ユーザーの権限を使用して、Enterprise Server の管理タスクを実行できます。このアクセス権により、一部の開発および業務配備でセキュリティ上の問題が発生する場合があります。

詳細については [問題報告](#)

(http://glassfish.dev.java.net/issues/show_bug.cgi?id=6058) を参照してください。

回避策

匿名ユーザーを手動で削除します。

新しい仮想サーバーの統計にアクセスするにはサーバーを再起動する必要がある (問題 6238、6422)

説明

新しく追加された仮想サーバーの統計をモニターするには、その前にサーバーを再起動する必要があります。

詳細については、[問題 6238](#)

(http://glassfish.dev.java.net/issues/show_bug.cgi?id=6238) および [問題 6422](#)

(http://glassfish.dev.java.net/issues/show_bug.cgi?id=6422) についての報告を参照してください。

回避策

仮想サーバーを追加したあと、サーバーを再起動して仮想サーバーのモニタリングデータを表示します。

管理コンソールおよびコマンド行で、設定のログ作成をサポートしていない (問題 6630)

説明

管理コンソールおよびコマンド行で、設定のログ作成をサポートしていません。

詳細については [問題報告](#)

(http://glassfish.dev.java.net/issues/show_bug.cgi?id=6058) を参照してください。

回避策

プレーンテキストエディタを使用して

`as-installdomains/domain1/config/logging.properties` ファイルを編集します。詳細は『[Sun GlassFish Enterprise Server v3 Prelude Administration Guide](#)』の「[Configuring Logging](#)」を参照してください。

`create jdbc-connection-pool` のヘルプ情報にオプションが記載されていない (問題 [5766](#))

説明

`create jdbc-connection-pool` コマンドのヘルプ情報の機能説明およびオプションについての項に、`--validateatmostonceperiod=interval` オプションが記載されていません。

このオプションについての説明は、次のとおりです。

`--validateatmostonceperiod`

接続を確認するための連続したリクエストの時間間隔を秒単位で一度だけ指定します。この属性を適切な値に設定すると、接続ごとの確認リクエスト回数を最小にすることができます。

デフォルト値は0で、これを指定すると接続確認は行われません。

詳細は [問題報告](#) (http://glassfish.dev.java.net/issues/show_bug.cgi?id=5766) を参照してください。

回避策

`create jdbc-connection-pool` についての完全な情報

は、[create-jdbc-connection-pool\(1\)](#) のマニュアルページを参照してください。

制限事項

この節では、次の Sun GlassFish v3 Prelude Enterprise Server の制限事項について説明します。

- 19 ページの「アップグレード」
- 20 ページの「`domain.xml` ファイル内の `application-root` 属性」
- 20 ページの「`asadmin` コマンドでサポートされないオプション」
- 20 ページの「マルチモード操作」
- 20 ページの「セキュリティー」

アップグレード

以前のインストールから Enterprise Server v3 Prelude へのアップグレードシナリオはサポートされていません。コマンド行インタフェースと設定は、互換性があります。

domain.xml ファイル内の application-root 属性

domain.xml ファイル内の application-root 属性に関するデフォルト設定を変更することはできません。

ドメイン要素の domain.xml ファイル内の application-root 属性は、ユーザーが配備するときにアプリケーションのアーカイブをどこに展開するかを指定するためのものです。

現在、Enterprise Server v3 Prelude ではこの属性ですべての場所を指定できるわけではありません。属性の用途の一部として、アプリケーションは `#{com.sun.aas.instanceRoot}/applications` に展開されることを想定しています。

asadmin コマンドでサポートされないオプション

asadmin コマンドのヘルプには、Sun GlassFish Enterprise Server v3 Prelude では一部のオプションをサポートしていないことが記載されています。次に例を示します。

- --target オプションなど、クラスタおよび複数のサーバーインスタンスに関するオプション
- --profile オプションなど、プロファイルに関するオプション

サポートされていないオプションを指定しても、構文エラーは発生しません。コマンドは正常に実行されますが、サポートされないオプションは無視されます。

マルチモード操作

asadmin コマンドのヘルプの例に、マルチモード操作でのコマンドが記載されています。Sun GlassFish Enterprise Server v3 Prelude では、マルチモード操作をサポートしていません。すべての asadmin コマンドを、オペレーティングシステムのコマンド行に個別に入力する必要があります。

セキュリティ

セキュリティーマネージャーによるセキュリティー保護モードはサポートされていません。

Java EE 5 プラットフォームの API

Sun GlassFish Enterprise Server v3 Prelude は、Java EE 5 プラットフォームをサポートしています。Java EE 5 プラットフォームで使用できる拡張 API を、次の表に示します。

表 1-6 Java EE 5 プラットフォームの主要な API の変更点

API	Java Specification Request (JSR)
Java EE 5	

表 1-6 Java EE 5 プラットフォームの主要な API の変更点 (続き)

API	Java Specification Request (JSR)
Java Platform, Enterprise Edition 5 (http://java.sun.com/javaee/5/docs/api/)	JSR 244 (http://jcp.org/aboutJava/communityprocess/pr/jsr244/)
Web サービステクノロジー	
Java API for XML-Based Web Services (JAX-WS) 2.1 (https://jax-ws.dev.java.net/)	JSR 224 (http://jcp.org/en/jsr/detail?id=224)
Java Architecture for XML Binding (JAXB) 2.0 (https://jaxb.dev.java.net/)	JSR 222 (http://jcp.org/en/jsr/detail?id=222)
Streaming API for XML (http://java.sun.com/webservices/docs/1.6/tutorial/doc/SJSXP.html)	JSR 173 (http://jcp.org/en/jsr/detail?id=173)
コンポーネントモデルテクノロジー	
Java Servlet 2.5 (http://java.sun.com/products/servlet/)	JSR 154 (http://jcp.org/en/jsr/detail?id=154)
JavaServer Faces 1.2 (http://java.sun.com/j2ee/javaserverfaces/)	JSR 252 (http://jcp.org/en/jsr/detail?id=252)
JavaServer Pages 2.1 (http://java.sun.com/products/jsp/)	JSR 245 (http://jcp.org/en/jsr/detail?id=245)
JavaServer Pages Standard Tag Library 1.2 (http://java.sun.com/products/jsp/jstl/)	JSR 52 (http://jcp.org/en/jsr/detail?id=52)
その他の Java EE テクノロジー	
Common Annotations for the Java Platform	JSR 250 (http://jcp.org/en/jsr/detail?id=250)
Java Persistence API (http://java.sun.com/j2ee/persistence/faq.html)	JSR 220 (http://www.jcp.org/en/jsr/detail?id=220)

Java EE 5 SDK

Enterprise Server v3 Prelude は、Java EE 5 SDK の一部として使用できます。使用できる Java EE 5 SDK のバージョンは、次の 2 つです。

- Java Application Platform SDK (<http://java.sun.com/javaee/downloads/>)
- Java EE 5 SDK (<http://java.sun.com/javaee/downloads/index.jsp>)

さらに、これらの SDK 配布を JDK または NetBeans 5.5.1 ツールとともにダウンロードすることもできます。詳細は、「[Java EE Downloads](http://java.sun.com/javaee/downloads/index.jsp) (<http://java.sun.com/javaee/downloads/index.jsp>)」のページを参照してください。

注 - GlassFish V2 と Enterprise Server v3 Prelude は、Java EE アプリケーションの開発では NetBeans 5.5 と連携していません。NetBeans 5.5.1 を使用する必要があります。

Enterprise Server のマニュアルセット

次の表に、Enterprise Server のマニュアルセットに含まれるタイトルと簡単な説明を示します。

表 1-7 Enterprise Server のマニュアルセットの内容

マニュアル名	説明
『Release Notes』	ソフトウェアとマニュアルに関する最新情報を提供します。サポートされているハードウェア、オペレーティングシステム、Java Development Kit (JDK™)、およびデータベースドライバの包括的な表ベースの概要を含みます。
『Quick Start Guide』	Enterprise Server 製品の使用を開始するための手順を説明します。
Installation Guide	ソフトウェアおよびそのコンポーネントのインストール方法を説明します。
『Application Deployment Guide』	Enterprise Server にアプリケーションを組み込んで配備する方法について説明し、配備記述子についての情報を提供します。
『Developer's Guide』	Enterprise Server 上で実行する Java Platform, Enterprise Edition (Java EE プラットフォーム) アプリケーションの作成と実装の方法を説明します。これらのアプリケーションは、Java EE コンポーネントおよび API の Java オープンスタンダードモデルに準拠します。このガイドでは、開発者向けツール、セキュリティー、デバッグについての情報を提供します。
『Add-On Component Development Guide』	Enterprise Server の公開されたインタフェースを使用して、Enterprise Server 向けのアドオンコンポーネントを開発する方法を説明します。このドキュメントでは確実に Enterprise Server に適したアドオンコンポーネントとするためのタスクの実行方法のみを説明します。
『RESTful Web Services Developer's Guide』	Enterprise Server 向けの RESTful (Representational State Transfer) Web サービスの開発方法を説明します。
『Getting Started With JRuby on Rails for Sun GlassFish Enterprise Server』	Enterprise Server に配備する Ruby on Rails アプリケーションの開発方法を説明します。
『Getting Started With Project jMaki for Sun GlassFish Enterprise Server』	jMaki フレームワークを使用して JavaScript™ テクノロジーに焦点を当てた Ajax Web アプリケーションを開発し、Enterprise Server に配備する方法を説明します。
Roadmap to the Java EE 5 Tutorial	『Java EE 5 チュートリアル』に含まれる Enterprise Server v3 Prelude リリースユーザー関連の情報について説明します。

表 1-7 Enterprise Server のマニュアルセットの内容 (続き)

マニュアル名	説明
Java EE 5 Tutorial	Java EE 5 プラットフォームテクノロジーと API を使用した Java EE アプリケーションの開発方法を説明します。
Java WSIT Tutorial	WSIT (Web Services Interoperability Technologies) による Web アプリケーションの開発方法を説明します。このチュートリアルでは、WCF (Windows Communication Foundation) のエンドポイントおよびクライアントと相互運用可能な Web サービスのエンドポイントおよびクライアントの開発に焦点を当てます。
『 Administration Guide 』	Enterprise Server サブシステムおよびコンポーネントを、 asadmin(1M) ユーティリティを使用してコマンド行から設定、監視、管理する方法を説明します。これらのタスクを管理コンソールから実行する方法の説明は、管理コンソールオンラインヘルプで提供します。
『 Administration Reference 』	Enterprise Server 設定ファイルである <code>domain.xml</code> の形式について説明します。
『 Reference Manual 』	Enterprise Server 管理コマンド、ユーティリティコマンド、および関連の概念についてのリファレンス情報をマニュアルページ形式で提供します。

問題の報告とフィードバックの方法

Sun GlassFish Enterprise Server v3 Prelude について問題がある場合は、次のいずれかの方法でフィードバックをお寄せください。

- [GlassFish メーリングリスト](#)
(<https://glassfish.dev.java.net/servlets/ProjectMailingListList>) — いろいろな話題とフィードバックのためのさまざまな GlassFish コミュニティーメーリングリストがあります。
- [GlassFish フォーラム](http://forums.java.net/jive/forum.jspa?forumID=56) (<http://forums.java.net/jive/forum.jspa?forumID=56>) — GlassFish プロジェクトについて議論するフォーラムです。

その他のリソース

以下の場所から有益な情報を入手することができます。

- [GlassFish コミュニティー](https://glassfish.dev.java.net/) (<https://glassfish.dev.java.net/>)
- [Glassfish Wiki: GlassFish v3](http://wiki.glassfish.java.net/Wiki.jsp?page=PlanForGlassFishV3)
(<http://wiki.glassfish.java.net/Wiki.jsp?page=PlanForGlassFishV3>)
- [Sun 開発情報](http://developers.sun.com) (<http://developers.sun.com>)
- [Sun 開発者サポートサービス](http://www.sun.com/developers/support) (<http://www.sun.com/developers/support>)
- [Sun Microsystems の製品マニュアル](http://docs.sun.com/) (<http://docs.sun.com/>)

第三者の Web サイト参照

このマニュアル内で参照している第三者の URL は、追加の関連情報を提供します。

注-このマニュアル内で引用する第三者の Web サイトの可用性について Sun は責任を負いません。こうしたサイトやリソース上の、またはこれらを通じて利用可能な、コンテンツ、広告、製品、その他の素材について、Sun は推奨しているわけではなく、Sun はいかなる責任も負いません。こうしたサイトやリソース上の、またはこれらを経由して利用可能な、コンテンツ、製品、サービスを利用または信頼したことによって発生した(あるいは発生したと主張される)いかなる損害や損失についても、Sun は一切の責任を負いません。

アクセシビリティ機能

このメディアの出版以降にリリースされたアクセシビリティ機能を入手するには、米国リハビリテーション法 508 条に関する製品評価資料を Sun に請求し、その内容を確認して、どのバージョンが、アクセシビリティに対応したソリューションを配備するためにもっとも適しているかを特定してください。アプリケーションの更新されたバージョンは <http://sun.com/software/javaenterprisesystem/get.html> から入手できます。

アクセシビリティ機能に対する Sun のコミットメントについては、<http://sun.com/access> を参照してください。